

第4回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録要旨については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時 平成29年11月27日(月)午後1時～

○会 場 豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール

○出席者 浜上委員 中嶋委員 中井委員 足立委員 國下委員 宮下委員
大垣委員 桑井委員 酒井委員 西池委員 林委員 高谷委員
川端委員

○欠席者 田垣委員 小西委員 谷委員 中江委員 柳委員

協議事項

(1) 計画策定にあたっての主な課題について

副委員長：

- グループホームが、最終的な住まいではなく、単身生活へ移行するための中間施設の機能を持つという箇所は、誤解を生みやすい表現ではないか。この表現だけでは重度の人が入れないことになり、表現方法を工夫していただきたい。

委員長：

- グループホームの機能は目指しているあり方によって変わってくるのではないか。老人系の認知症グループホームは終の棲家になりかけているが、障害者も同様ではないか。それを踏まえると、一面的な書き方になっているのではないか。

事務局：

- 市内のグループホームでは、一人暮らしの方もあり、入所者が地域に移行するのはなかなか難しい。障害者自立支援協議会でもグループホームを一人暮らしに向けての訓練の場として有効活用するという意見もある。単身者、障害の程度によって難しい方もあるので、グループホームについて、両面併記にしたいと思う。

副委員長：

- ステップアップも大きな方法なので両面併記でお願いしたい。

委員長：

- 市の地域コミュニティへの働きかけを具体的に文言で書くのは難しいか。

事務局：

- 地域コミュニティは、本年4月から立ち上がったところで進み具合に差があり、また、拠点としてのいろいろな役割をすべてお願いするのは難しい、今後、お願いする部分がでてくれば状況に応じて考えていきたい。

C委員：

- 今の地域はどの範囲なのか、区単位かもっと小さいか、または、大きいのか。
- 実際に、コミュニティに携わっているが、健常者の話ばかりで、障害のある人まで目が向いていない。
- 豊岡病院で提供している短期入所について、ニーズを受け入れてもらえていないとあるが、提供内容とニーズを具体的に教えてほしい。

事務局：

- 豊岡病院の短期入所の受け入れ状況は、平日日中で週1日1人であり、ニーズからみると難しい状況にある。重度心身障害者のグループインタビューでも受け入れてほしいという意見が強くあったが、病院としては看護体制で受け入れの拡大ができていないということである。

委員長：

- あまり便利なショートステイになっていない。

D委員：

- グループインタビューからのニーズは、平日夜間、土日祝などの利用意向なので、豊岡病院の受入態勢とは、そもそも合っていない。ただ、利用しないとサービス自体がなくなるのではないかとということで、曜日、時間を合わせて利用しているのが現状で、ニーズがないのではなく、利用できないということである。

委員長：

- 長期的問題であり、もう少しそのあたりがわかるように書けないか。

C委員：

- 豊岡病院のショートステイのサービスはいつからか、また、進んでいないのか。
- 進められない原因は専門家がないということか。
- 計画に書いてあるだけで何も進まないのであれば、問題だと思う。

事務局：

- 豊岡病院のショートステイは、市長、副市長によるトップダウンで進めて、一貫して毎日のサービスで交渉をしてきたが、結果は、週に1回、平日の日中のみの受け入れとなった。利用ニーズはあり引き続き協議を行いたい。
- ショートステイは、毎日のサービスとなると看護師は専属1名配置となり、人件費が問題と思われる。

副委員長：

- 公立の豊岡病院では県の指定を受けるのではなく、好意でやってもらっているという位置づけか。

事務局：

- 豊岡病院も県の指定をとっている。

副委員長：

- 県の指定であれば、それなりのことはしなければならない。市長、副市長がお願いして、始めたというプロセスはあると思うが、そういうことでよいのか。

事務局：

- 医療型短期入所は医療機関がすることになっており、運営のあり方については、県とも本来あるべき形について、監査も含めて協議をしていきたい。
- 現時点は、指定をとっているので運営面等はクリアしていると思うが、利用の受け入れについては段階を追っていくことになっているのかと思う。今後、状況を把握した上で協議していきたい。

D委員：

- 平成27年に豊岡病院に登録できたが、サービスと利用したいニーズが合っていない。今期の3年計画で少しできても、今以上に多いと思われる利用希望者は利用できないことになる。先進地のようなサポート体制がとれないのか。

委員長：

- 課題は十分に認識されていると思われる。今期の対応は取られていると思うが、なかなか進展しない。今後の重点課題としてしっかりと書きぶりを検討いただきたい。
- 保健・医療・福祉の連携の問題がある。老人系と障害者では、双方が連携について意識がないように思う。今後、連携が必要であるが2つの連携があっても有効

ではないので、それらの接点を持たせられないのか。

- 放課後等デイサービスについても社会資源が減少している現状で、老人系のデイサービスとの共同はできないものか。

事務局：

- 地域包括ケアシステムは、精神障害に特化しているが、今年度、老人保健福祉計画・介護保険事業計画で、地域包括ケアシステムの構築に向けて日高地域をモデルとして進めてきた。主に障害、高齢を中心に議論をしており、その部会には障害の関係のメンバーが入って進めてきている。

(2) 計画の基本的な視点及び基本方針について

委員長：

- 基本方針としては、この方針で了承された。

(3) 障害福祉計画の成果目標について

委員長：

- 障害者の就労定着率は80%を目指すとするが、現在ほどの程度か。

事務局：

- 就労定着支援は平成30年度からの事業のため現時点では就労定着率は把握できていないので、今後把握していく。

D委員：

- 医療的ケアについて、障害児は入っているが、大人の医療的ケアはどうするのか。障害者の重度の方の成果目標にはあまり触れられていないが、どうなのか。

事務局：

- 医療的ケアは、国の基本指針では、障害児を対象に協議の場を平成30年度末までに設置となっているが、障害者も障害児もすべきことは同じ内容なので、合わせて取り組んでいければと考えている。

委員長：

- 重心の方にとっては一生の問題なので考えていただくことになる。
- ショートステイ、重心の方の医療ニーズへの対応を具体的に進めていただきたい。

(4) 障害福祉サービス等の見込量及び確保のための方策について

D委員：

- ・ 障害者の日中活動の数値で、生活介護、就労継続A・B、就労移行の各サービスの伸びが合計でプラス8人となっているが、特別支援学校との連携をとられた上での数値になっているのか。

事務局：

- ・ 卒業生が何人などの詰めはしていないが過去の実績から計画値を推計している。

副委員長：

- ・ 短期入所については、グループホーム併設で短期入所をするところが増えてきており、さらに豊岡病院で解消を目指すとなると目標値が低いのではないかと。
- ・ 施設入所について、障害者の高齢化や重度化で、グループホームの支援だけでは安全な生活が見込めない。入所施設が必要な人はあり、高齢化するとさらに必要ではないか。介護保険に移行すれば解決するのではと思うが、現実には難しいと思う。

事務局：

- ・ 施設入所支援は、重度化、高齢化が進んでおり、地域移行が難しい状況かと思う。施設入所の方を調べてみたが、区分6の方が多くなってきている。現状の傾向を踏まえて計画値としている。

H委員：

- ・ 手話通訳者派遣事業・要約筆記者派遣事業について、過去3年間、計画値に対して実績値が半分で、計画値も実績値に合わせて激減している。手話通訳者のニーズ確保、要綱改正の点を考えるとここまで減少させなくてもよいのではないかと。
- ・ 手話通訳者設置事業では、不在時に窓口対応ができていない課題に対して計画値には変化はないが、それでは解決できないのではないかと。

事務局：

- ・ 手話通訳者派遣事業では、平日派遣が難しい場合に対して、曜日を限定してさらに一人を計画値に含めていたこともあり、実績値が低くなっている。市の手話通訳者の派遣の要綱については、長期間見直しがされていないので、派遣制度をより利用しやすくする仕組みを検討していきたい。

- 手話通訳者の設置事業については、現在1名であるが、出来る限り事務所内部で対応していきたい。また、コーディネートをして平日派遣をしていきたい。

(5) 計画の推進体制について

D委員：

- 計画の3か年中に、新しいサービスができた場合、計画値よりは伸びる可能性もあるが、それは利用を推進していくということか。

事務局：

- それは利用可能であるし、推進していく。

委員長：

- 介護保険の場合は、サービスの支給が保険料に跳ね返ってくるのでサービス基盤を調整しながら保険料が高くないように内容に抑止力が効いてくる。障害者でもそのようにできる可能性はあるのか。
- 推進体制は長期間、同じ形が続いているが、今期の委員会の議論の中で特に、グループインタビューの運営について意見があり、どうすればより実態を反映できるのか、今後、検討していただきたい。

事務局：

- グループインタビューのあり方について、今後3年のために考えていきたい。アンケート、障害者自立支援協議会との関係についても考えていきたい。

副委員長：

- 計画推進に当たってサービスを構築していくという文章になっており、数字が増えていくことになる。必要に応じて計画を見直すとなっているので委員としても注視していきたい。
- 参考資料のサービスの提供と実績の達成率が低いが、他地域や他分野（高齢介護など）ではどうか。障害分野だけが、特に低いわけではないと思う。いざという時のために申請しており、達成率が低いので必要ないということではない。

委員長：

- 第5期障害福祉計画、第1期障害児福祉計画は、財政面も含めて大きなターニングポイントだと思う。人材確保、事業所設置などあるが、基本理念にある、他との連携、地域との連携について障害者自立支援協議会と考えていかないと、障害者福祉が破たんする局面ではないかと思うので、推進委員会でも見守っていく

ことが課題かと思っている。

(6) 第5期豊岡市障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の素案について

委員長：

- 今日の意見は反映して、パブリックコメントとするのか。

事務局：

- 今日の意見は反映し、修正した上で、委員長、副委員長に協議いただいて、パブリックコメントを年明けに実施したい。
- 第2回策定・推進委員会で、アンケート、グループインタビューに関する意見をいただき、意見の内容とその対応について、出来ること、出来ないことなどを資料として残したいということがあり、参考資料に掲載したいと考えている。

委員長：

- 修正案を委員長、副委員長に一任で了解いただけるか。
- 了承をいただいたので、今日の意見を素案に反映し提示いただいて、パブリックコメントに進めていきたい。